

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2021 vol.82

February						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

◆ 水災慰霊碑

所在地：瀬戸市泉町

交通：名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅 北東 約 1.3km

昭和 32 年 8 月 7 日から 8 日にかけて、岐阜県多治見市から名古屋市を結ぶ地域や瀬戸市、豊田市などの地域で、雷を伴った短時間の集中豪雨がありました。7 日夜半と 8 日午後の 2 度、激しい降雨があり、愛知県では 88 戸の家屋が全壊・流失し、死者・行方不明者は 33 名に上っています。

瀬戸地域は、戦前から陶器生産が盛んで、燃料として山林が次々と伐採され、裸地などの大雨により土砂が流出しやすい条件が揃う場所がありました。瀬戸市では、この豪雨により、各地で大規模な山崩れが発生し、家屋全壊・流失 36 戸、死者・行方不明者 23 名を数えたほか、田畑の流失・冠水 879ha、陶磁器の生産工場 25 工場が全半壊、146 工場が土砂の流入を被るなど、甚大な被害を受けています。

瀬戸市の人的被害は、泉町一帯に集中しています。泉町は市街地の北に広がる鉢山に隣接した地域で、大規模な宅地の崩壊が発生し、40 名余りの方が生き埋めとなりました。地元住民の救助活動に加え、自衛隊も出動し、23 名は救助されましたが、22 名の方が命を落とし、1 名が行方不明となっています。以下は、泉町の土砂崩れで母親を失った方の体験記です。当日の切迫した状況がよく伝わってきます。（瀬戸市立深川小学校（現在は閉校）HP より、一部略）

「昭和 33 年 8 月（原文ママ）、その日も雨。夕方、雨がやんだ後、山の泥水が流れ込まないように土嚢を積んだり、溝を掘ったりの作業が始まった。男手のない私の家では、母が出ていた。9 時少し前だったろうか。私の家の南

東からゴオーというものすごい音とともに白い土けむりが上がった。南の安田さんの家が土砂にのまれ、あっという間に消えたかと思うと、西下にある数軒の家が全部、つぎつぎに流れに押しつぶされて見えなくなった。土砂の流れた直後、山の上に池があったのではないと思われるぐらいの水がどっと流れ、たちまち泥の海となった。くずれ去った家々のあたり（地底）から人々の「ウー、ウー」という、うめき声が聞こえた。一夜明け、自衛隊が出動、生き埋めになった人々を捜し始めた。近くのお寺に一人二人と屍になった人々が運び込まれてきた。泥水で汚れた体をきれいに洗って、白い棺に入れていった。私は本堂に安置された母に最後のお別れをした。むらさき色にかわった母の顔を見て、最後のその時、残す三人のわが子を想い、さぞや無念であつたろうと、流れる涙をとめるすべもなかった。」

豪雨災害の翌年の 3 月 8 日、地元の自治会により、災害のあった場所に「水災慰霊碑」が建てられました。慰霊碑は、犠牲になった方々の冥福をお祈りするとともに、このような惨事を繰り返さないことを願って建てられたものです。

愛知県では、土砂の流出による被害防止のために土地の形状変更などを制限する砂防指定地が、県全体の面積の約 7 分の 1 を占め、全国でも第 3 位の広さとなっています。これまでに各地で砂防工事が行われ、宅地化されて団地が造成されていますが、今一度、地域の災害特性について考え、災害への備えを意識しておきましょう。



水災慰霊碑（深川小 HP より）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆水災慰霊碑の周辺には…

● 定光寺

所在地：瀬戸市定光寺町

交通：JR 中央線「定光寺」駅 東 約 1.5km

弘安 10 (1287) 年から始まる『定光寺年代記』には、地震や大雨など、様々な災害に関する記録が残されています。

年代記によれば、摂津・河内に大きな被害を与えた地震とされる永正 7 (1510) 年 8 月 7 日の地震で、定光寺でも仏殿や山門が被害を受けています。

● 広久手一八号窯跡

所在地：瀬戸市吉野町 交通：愛知環状鉄道「山口」駅 南東 約 1.7km

瀬戸市の基幹産業である窯業も地震の被害を受けています。瀬戸市史によれば、広久手一八号窯跡には地震によって生じた地滑りが発掘によって確認されています。(現在では埋め戻されており、直接確認することはできません。)

◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。



● 鉄池 (濃尾地震に関係する碑)

所在地：春日井市大泉寺町

交通：JR 中央線「神領」駅 北 約 2.5km

鉄池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。この碑には、明治 24 (1891) 年濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことが記されています。



★ 陶のまち 瀬戸のお雛めぐり

瀬戸のまちなかをお雛さまが華やかに彩る「陶のまち 瀬戸のお雛めぐり」は毎年 2 月から 3 月にかけて、瀬戸蔵を中心としたエリアで開催されます。(2021 年は 1 月 30 日 (土) から 3 月 7 日 (日))

主会場の瀬戸蔵のミュージアムには、高さ 4m のピラミッド型巨大ひな段「ひなミッド」が設置され、約 1,000 体の陶磁器・ガラスの創作雛が並び、見ごたえ十分です。

期間中は瀬戸焼のお雛さま作り体験や瀬戸染付体験など、数多くの体験イベントが用意されています。周辺のレストランでは期間限定の特別メニュー「お雛ランチ&スイーツ」も楽しむことができ、数量限定でお雛はしおきのプレゼントもあります。



Aichi Now HP より

あいちの農産物

愛知県のいちご栽培は明治時代に始まり、現在はビニールハウスなどで夏場を除きほぼ一年中栽培され、全国第 6 位の出荷量です。



愛知県園芸農産課 HP より

県内では「とちおとめ」「あきひめ」「紅ほっぺ」などが栽培され、農業試験場で開発された「ゆめのか」も、海部地域を中心に生産されています。

いちごの赤い部分は果実ではなく、果実を保護するベッドの役割をする花托かたくと呼ばれるもので、外側の種のようなつぶつぶが果実です。

● ブレイクタイム ●

♪ 瀬戸蔵

瀬戸蔵は、愛・地球博が開催された 2005 年にオープンした、「産業観光」「市民交流」を支援する複合施設で、瀬戸の歴史、伝統、文化を次世代に受け継ぎ、世界に向かって発信し続けています。

メイン機能は「瀬戸蔵ミュージアム」で、せとものの大量生産で活気のあった時代の瀬戸をイメージした展示や、1000 年以上の瀬戸焼の歴史の大パノラマ展示が行われています。館内には、愛知県陶磁器工業協同組合による「窯元直販ショップ」瀬戸蔵セラミックプラザも併設されています。



Aichi Now HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2021 年 2 月)